

～ 尊い人命を守るために ～

不特定多数の人が利用する建物には、人命を守るために、法律で規定された避難設備が備えられています。その中で、代表的な2つの設備（非常用照明、排煙設備）について説明します。

非常用照明とは！

災害時に、停電しても避難活動を可能にするために、取り付けられる非常用照明器具のことを言います。非常用照明は、停電の際、自動的に非常電源に切り替わり点灯します。

火災や地震などで停電した場合、暗闇の中での避難は、思わぬケガをしたり、出口が分らずパニック状態となり煙にまかれて死亡する事故が発生しています。

非常用の照明装置が点灯していると必要な明るさが確保され、安心して避難ができます。ただし、定期的な点検が必要になります。

非常用照明の例



点検用スイッチ：これを引っ張ると、非常用照明が点灯します。

点灯しない場合は、バッテリーが切れているか、球切れの可能性がありますので、点検してください。

モニタ：通常は、緑色のランプが点灯します。点灯しない場合や赤色に点灯する場合は、バッテリーの寿命が尽きている可能性がありますので、点検してください。

（機種、年代によって確認方法が異なる場合があります）

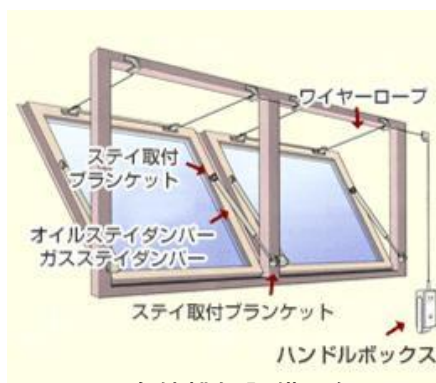
排煙設備とは！

火災時に発生する有毒な煙や熱を排出して、避難経路を確保するのが排煙設備で、機械排煙と自然排煙とがあります。

排煙設備が機能しないと、災害時に室内に煙が充満し、一酸化炭素中毒につながる非常に危険な状態になってしまいます。

火災時は排煙設備を作動させ、煙が室内に充満するのを防ぎましょう。

排煙設備の例



＜自然排煙設備の例＞

排煙操作盤（引き手、ボタンなど）を操作すると、排煙口が開放され、煙が排出されます。排煙設備には、窓を用いる自然排煙と、ファンによって煙を吸い出す機械排煙があります。

操作方法は事前に確認しておいて下さい。また、排煙設備の周辺には物を置かないようにしましょう。

防火戸とは！

火災時に発生する有毒な煙や炎を遮断し、避難経路を確保するのが防火戸です。一般的に常時閉鎖式防火戸と随時閉鎖式防火戸があります。

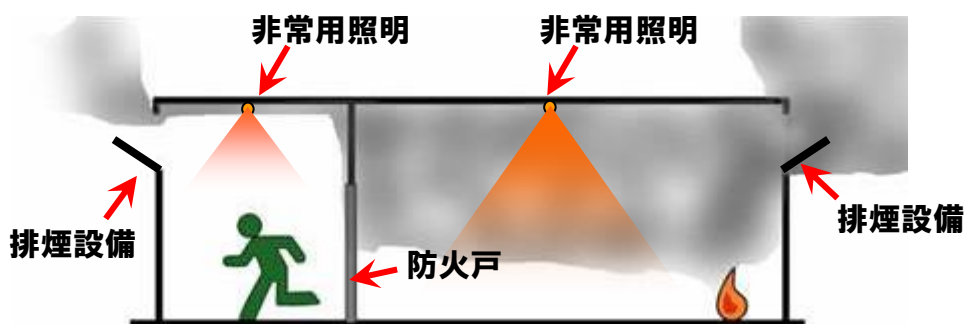


常時閉鎖式防火戸は、常閉式（じょうへいしき）と呼ばれ、画像のように普段、閉まった状態にある防火戸のことです。扉を開けて人が出入りすると、自動的に閉じます。防火戸が閉まる箇所に物品を置いたり、防火戸を開いた状態で固定すると、非常時に防火戸の機能が果たせないため、注意しましょう。



随時閉鎖式防火戸は、随閉式（ずいへいしき）や常開式（じょうかいしき）と呼ばれ、画像のように普段は開き放し状態にある防火戸のことをいいます。火災による熱や煙を感知すると、ボタンと閉まります。戸板が閉まった状態でも避難者や消防隊が出入りできるように、戸板に常時閉鎖式防火戸が内蔵されています。

避難設備のイメージ図



避難設備が機能していれば、いざという時に安心して避難できます。

逆に、機能しなければ人命に係る重大事故につながる恐れがあります！

いざという時のため、普段からしっかり機能するよう整備に努め、事前に操作方法を確認しておきましょう。なお、非常用照明や排煙設備以外の避難設備についても、普段から整備に努めましょう。

不明な点があれば、建築指導課指導班（熊本市役所 11 階 096-328-2513）までご相談下さい。